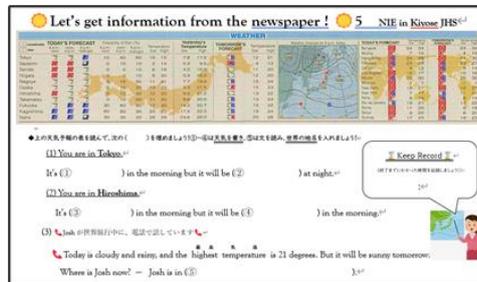


NIE

本校ではNIE (Newspaper in Education)に取り組んでいます。新聞を教材として活用し、社会への関心を高め、自分ごととして考えを深めることにつなげていきます。

国語では、戦争文学における平和へのメッセージの読み取りをきっかけとして、戦争や平和に関する新聞記事を読むことで多様な文章から視野を広げる学習を行いました。

英語科では、英字新聞を活用しました。各学年の単語や文法の習熟度に応じて新聞記事を活用し、学習した英語表現を実生活につなげることを行っています。写真は、天気予報を読みとり、英文が正しくなるように天気や地名を埋める活動のためのワークシートです。



改めて各新聞社の14日の見出しをいくつか抜粋すると

- ・生成 AI で偽論文——毎日新聞
- ・半導体投資 1.5 兆円下振れ——日本経済新聞
- ・海上自衛隊 特定業者優遇か——産経新聞
- ・東京女子医大元理事長逮捕——読売新聞

私は、全ての新聞で扱っていた“全国高校サッカー選手権大会”の記事の中で、特に朝日新聞の内容に注目しました。

「劇的PK戦 前橋育英V」

前半では1-1のまま、10分ハーフの延長戦でも決着がつかずにPK戦へ突入。5人で決着がつかず、サドンデスに。先攻の流通経済大柏10番目の選手がゴールの枠を外し、後攻の前橋育英がゴールを決めゲームセット。記事は、流通経済大柏の榎本監督へのインタビューで閉じられています。「PK戦での決着は複雑。一人に勝敗を背負わせるのはどうか」この監督の言葉について、考えさせられました。私のやってきた野球は1対1の場面が多いですから、その一球で勝負が決まるということは多々ありました。例えば9回裏2アウトランナー3塁、相手バッターはショートゴロ、エラーでサヨナラ負け。ショートを守る選手が一人勝敗を背負うことになります。試合で戦う以上、チームスポーツですから、どの選手もその可能性をはらんでいます。しかし、流通経済大柏のメンバーは、おそらく誰も10番手の選手に敗北を背負わせません。榎本監督はそれを分かっている、あえて彼のことを慮り、語ったのでしょう。放ったシュートは、前橋の5に対し柏は10、あと1点その1点を奪えなかった。

1月9日10日の2日間、生徒会がPK戦に突入しました。2学期末に全校に“ペットボトルキャップ”略してPKの回収を呼び掛けました。回収したキャップを樹脂メーカーに買い取ってもらい、その



お金を寄付しワクチンを購入するという活動です。約6.5kgものペットボトルキャップが集まりました。1個が約2gですから、約3250本分!!誰か一人が背負うのではなく、多くの皆さんの意識が協力を生み出しました。

よく考えてみると、ペットボトルキャップのスペルは“PET bottle cap” とうことは、PC。

ペットボトルキャップ回収 回収のKをとって PKということで。この間違えは私一人で背負います。